

生研ニュース

☆第5回生研講習会☆

財団法人生産技術研究奨励会主催の第5回生研講習会は、生産技術研究所の協力の下に、昭和42年6月28日（水）から3日間東京都港区六本木の同研究所で開かれた。今回の講習「テーマ」は、〔環境開発の技法……（自然環境と人口環境のシステム化）……〕で、生産技術研究奨励会賛助員の会社その他産業界から百三十名参加各日とも午前午後にわたり講義、第3日目には、パネルディスカッションも行ない盛況裡に終了した。なお題目および講師は次のとおりであった。

環境開発のための基礎理論（2時間）

池辺 陽（教授・工博）

環境開発の技法のもっとも基本をなすものは、計画の対象としての環境を把握する方法である。ここでは、それをシステムエンジニアリング的なアプローチをもって環境をシステム化することによって把握し、それを基礎として計画技法の展開を試みる。

システム工学の現状（2時間）

森 政弘（助教授・工博）

現代技術の一般的基礎となりつつあるシステム論の成立について概説し、そのいくつかの方法についてふれることにより環境開発の基礎理論としてのシステムの追究の可能性について検討する。

環境開発における自然環境の意義

1. 土地(1.5時間)

三 木 五 三 郎（助 教 授）

2. 水(2時間)

井 口 昌 平（教授・工博）

3. 空気(1.5時間)

勝 田 高 司（教授・工博）

環境開発において今後重要性が増大するのは自然環境である。自然環境の状態は、開発の方法・投資効果などに重要な影響を及ぼす。これらについてそのもっとも重要な条件として、土地・水・空気について検討を行なう。

環境開発技術の現状と可能性

1. 空間構造技術（2時間）

坪 井 善 勝（教授・工博）

2. 空間調整技術（2時間）

勝 田 高 司（教授・工博）

3. 空間組織技術(1.5時間)

池 辺 陽（教授・工博）

環境開発に関する技術は現在急速に発展しつつある。これらのうち主として空間構成に関する技術について、現状から今後の可能性について展望する。

パネルディスカッション（2時間）

環境開発と研究・技術のネットワーク

（交通およびエネルギーの問題を含めて。）

上記講師および

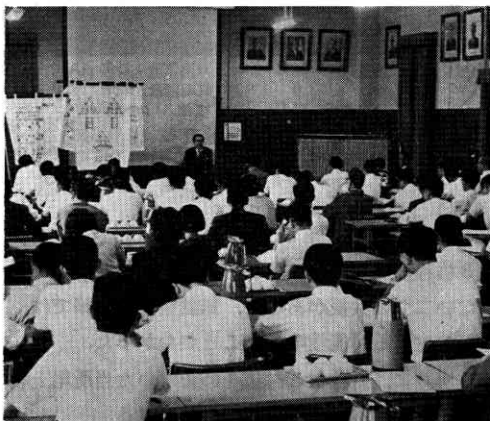
星 埜 和（教授・工博）

澤 井 善 三 郎（教授・工博）

平 尾 収（教授・工博）

環境開発に対する研究・技術のネットワークの必要は明らかであるが、その実態と矛盾、発展の方向について各方面から実証的なディスカッションを行ない、受講者も多数参加した。

（黒田記）



——森講師の講義に耳を傾ける受講者——



——熱心な受講者のプロフィール——

講習会風景